

表1. 植栽植物一覧

植栽区	番号	植物名	学名
A	1	コスツス・アフェル	<i>Costus afer</i>
	②	コスツス・マロティエアヌス	<i>Costus malortieanus</i>
	③	コスツスの一種	<i>Costus sp.</i>
	④	ムサ・ヴェルチナ	<i>Musa velutina</i>
B	1	フイリクマタケラン	<i>Alpinia formosana</i> cv. <i>Variegata</i>
	2	キフゲトウ*	<i>Alpinia zerumbet</i> cv. <i>Variegata</i>
	3	ジョウオウヤシ	<i>Arecastrum romanoffianum</i>
	④	カマエドレア・セイフリッキー	<i>Chamaedorea seifrizii</i>
	⑤	ヒメテープルヤシ	<i>Chamaedorea tenella</i>
	6	アブラヤシ	<i>Elaeis guineensis</i>
	7	メディニラ・マグニフィカ*	<i>Medinilla magnifica</i>
	⑧	メディニラ・スペキオサ*	<i>Medinilla speciosa</i>
	9	トーチジンジャー	<i>Nicotiana elatior</i>
C	1	クロトン*	<i>Codiaeum variegatum</i> var. <i>pictum</i> cv. <i>Variegata</i>
	2	キンシボク	<i>Graptophyllum pictum</i>
	③	ブセウデランテムム・アラツム	<i>Pseuderanthemum alatum</i>
	4	ブセウデランテムム・アトロブルブレウム	<i>Pseuderanthemum atropurpureum</i>
	5	ブセウデランテムム・アトロブルブレウム・ウエイギタ	<i>Pseuderanthemum atropurpureum</i> cv. <i>Variegata</i>
D	①	バンレイシ*	<i>Annona squamosa</i>
	②	パパイヤ*	<i>Carica papaya</i>
	③	パパイヤ・ブチカリオン	<i>Carica papaya</i> cv.
	④	パパイヤ・スイートイエロー	<i>Carica papaya</i> cv.
	⑤	クダモノトケイソウ*	<i>Passiflora edulis</i>
	⑥	オオミノトケイソウ*	<i>Passiflora quadrangularis</i>
	⑦	ペペロミア・アルギレイア	<i>Peperomia argyreia</i>
	8	ペペロミア・クルシイフオリア	<i>Peperomia clusiifolia</i>
	9	ペペロミア・オオシワリア・グリーンゴールド	<i>Peperomia obtusifolia</i> cv. <i>Green Gold</i>
	⑩	レンブ(桃色果)	<i>Syzygium samarangense</i>
	11	カカオ*	<i>Theobroma cacao</i>
E	①	アリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i>
	2	ニオイパンマツリ	<i>Brunfelsia australis</i>
	3	オオバナカリッサ*	<i>Carissa grandiflora</i>
	④	ハナセンナ	<i>Cassia corymbosa</i>
	⑤	クフェア・タイニーマイス	<i>Cuphea cv.</i>
	⑥	ハナヤナギ	<i>Cuphea micropetala</i>

○付き数字:新たに大温室に導入・植栽した種

\*:前年度報告漏れの種

## ナンバンサイカチ (*Cassia fistula* L.) の開花について

平井健一郎・柴田昌男

現在大温室には、ナンバンサイカチを2株植栽している。以前から植栽してある熱帶有用木コーナー(前報参照)に1株と、前年度土壤入れ替えに伴い、より日当たりのよい上段バンダコーナー後方に移植した1株である。そのうちの1株が開花したので報告する。

開花したのは熱帶有用木コーナーに植栽している高さ約6mの株である。本株は1975年に小石川植物園から導入されたもので、現在の場所に植栽されたものの、開花に至っていなかった。



植栽区	番号	植物名	学名
E	7	ケショウボク	<i>Dalechampia roezliana</i>
	⑧	ユーフォルビア・フルゲンス	<i>Euphorbia fulgens</i>
	⑨	ユーフォルビア・レウコケファラ	<i>Euphorbia leucocephala</i>
	10	ボインセシア	<i>Euphorbia pulcherrima</i> cv. <i>Variegata</i>
	11	キバナヨウラク*	<i>Gmelina histrrix</i>
	12	オンドントネマ・ストリクトム	<i>Odontonema strictum</i>
	13	ハナビソウ*	<i>Pellionia daveauana</i>
	14	タイガーリーフ	<i>Peristrophe hyssopifolia</i> cv. <i>Aureovariegata</i>
	⑯	プレクランサス・スンムラリウス	<i>Plectranthus nummularius</i>
	16	ランディア・マクランサ*	<i>Randia macrantha</i>
F	①	オオゴチョウ	<i>Caesalpinia pulcherrima</i>
	2	ナンバンサイカチ*	<i>Cassia fistula</i>
	3	ジャカラダ	<i>Jacaranda mimosifolia</i>
G	①	アンスリウム・アムニコラ	<i>Anthurium amnicola</i>
	②	アンスリウム・アンドレアヌム	<i>Anthurium andreanum</i>
	③	アンスリウム・マグニフィクム	<i>Anthurium magnificum</i>
	④	ベニウチワ	<i>Anthurium scherzerianum</i>
	⑤	アンスリウムの一種	<i>Anthurium</i> sp.
	⑥	アンスリウム・ワロクエアヌム	<i>Anthurium waroceanum</i>
	⑦	セイシカズラ	<i>Cissus discolor</i>
	⑧	キッスス・シキオイデス	<i>Cissus sicyoides</i>
	⑨	クルシア・ロセア	<i>Clusia rosea</i>
	⑩	ホウオウボク	<i>Delonix regia</i>
	⑪	テンジクボダイジュ	<i>Ficus religiosa</i>
	⑫	サキシマスオウ	<i>Heritiera littoralis</i>
	⑬	ムクナ・ブラキカルバ	<i>Mucuna brachycarpa</i>
	⑭	プラティケリウム・グランデ	<i>Platycerium grande</i>
	⑮	トライスカンティア・アルビフロ・アボウイタ	<i>Tradescantia albiflora</i> cv. <i>Albovittata</i>
	⑯	ウラリア・クリニタ	<i>Uraria crinita</i>
H	①	シロバナルリマツリ	<i>Plumbago auriculata</i> cv. <i>Alba</i>
	②	クサトベラ	<i>Scaevola sericea</i>
	3	シャウエリア・カリコトリカ	<i>Schaueria calycotricha</i>
	4	フトボナガボソウ	<i>Stachytarphe jamaicensis</i>
	⑤	イエライシャン	<i>Telosma cordata</i>

1999年2月下旬、主幹に環状剥皮を行い様子を見ていたところ、同年8月、多くの花房を出し開花しているのを確認した。

新梢の基部に近い葉もしくは前年枝から総状花序を下垂させ、1花序40~60cm、長いもので120cmを超えるものもあった。1花序当たりの小花数は60輪前後のものから100輪以上のものもあった。花は径5~6cmの5弁花で黄色、約5cmの互生する花柄の先に1花を付ける。花序の基部から順次咲き始め、1花の寿命は比較的短かったが、1花序では2ヶ月以上咲いたものもあった。

当初、バンダコーナー後方に移植した株が生育条件、特に日当たりがよくなつたので開花するものと予想していたが、この株は開花しなかつた。また、1997年から大温室の果樹・花木の管理は、間引き剪定・かん水制限による土壤の乾燥等を中心に行ってきましたが、やはり温室の、枠等による光線不足のためか、なかなかよい結果が出でていない。また、ナンバンサイカチと同時期に剥皮したカエンボクも今年開花したことから、大温室で未だ開花の見られない果樹・花木に対しては環状剥皮を試みる必要がある。